

営農情報(令和6年3月)

作成・監修 勝浦町農業振興推進班

■かんきつ類

◇整枝・剪定

- ・剪定の一般的な手順は次のとおり。
 - ①樹高を切り下げる
 - ②主枝と競合する枝を間引く
 - ③内向枝を除く
 - ④被さり枝を除く
 - ⑤立ち枝を除く
 - ⑥地際の下垂枝を除く
 - ⑦枯れ枝の除去
- ・高糖系温州は、隔年交互結実のため表裏が顕著になることから、表年樹は不要な強い立枝等を除く程度とし、裏年樹は込みすぎた枝を間引き、樹形を整える切り返しで2割程度の剪定量とする。
- ・連年結果園の表年樹は、結果母枝の数を調整する切り返しを主体とし、予備枝をつくる。裏年樹は、少ない結果母枝を残し、花を確保するため間引き剪定を中心に、果梗枝を整理する程度にとどめる。
- ・すだちは、果実に直射光が必要なため、亜主枝間隔をとり、樹冠内部まで光が届くようにする。また、樹勢維持のため、切り返しにより樹形を整えるとともに、側枝の若返りをはかる。
- ・剪定時期は、通常発芽前に行うが、裏年樹では開花まで待つこともできる。

◇施肥(春肥)

	施肥時期	施肥例(N P K)	施肥量/10a
温州みかん	下旬	JA東とくしま温州みかん栽培管理暦参照	
すだち	中下旬	ニューグリーンすだち(13-6-11)	50kg
ゆず・ゆこう	中下旬	ゆず配合(12-7-10)	90kg

※ 農薬散布時に、葉面散布として尿素300倍を混用する。

◇園地の除草

- 除草剤ラウンドアップマックスロード(7日前/5回以内)10aあたり使用例
 - ・通常散布 (使用量500ml、希釈水量50~100L)
 - ・少量散布 (使用量500ml、希釈水量5~10L)ただし、専用ラウンドノズルULV5使用。

【3月の病害虫防除】

みかん・すだち

時期	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
上中旬	ミカンハダニ	ハーベストオイル※	80倍	—	—
下旬	かいよう病	ICボルドー66D※★	50倍	—	—

※上記薬剤の散布間隔は2週間程度あける。(かんきつ全般)★みかんは、かいよう病発生園のみ

ゆず

上中旬	ミカンハダニ	ハーベストオイル	80倍	—	—
下旬	幹腐病※	ICボルドー66D	50倍	—	—

※ICボルドー50倍液は、枝幹部を中心に散布し、病斑部には2倍液(水1LにICボルドー1kg)を局所散布する。2倍液は葉にかからないようにする。

幹腐病が進行した病患部は、周囲の健全部を含めて削り取り、トップジンMペースト(剪定整枝時/3回以内)を塗布する。

うめ

落弁期	アブラムシ類	ウララDF	4000倍	7日	2回以内
	灰色かび病	ロブラール(水)	1000倍	45日	〃
展葉期	黒星病	ストロビー(ド)	2000倍	7日	3回以内

キウイフルーツ

萌芽前	花腐細菌病	コサイド3000	2000倍	休眠期~養生期	—
発芽期		カスミンボルドー ※	1000倍	発芽後養生期	4回以内

※発芽期以降はクレフノン 200倍を加用する。新梢が10cmまでに散布する。

■たまねぎ

◇追肥(止め肥)

- 中生、晩生では、3月中旬を止め肥とする。窒素成分で5kg/10aを目安とする。
- 肥料の遅効きは、玉の肥大、成熟を遅らせ、貯蔵性を悪くするので、止め肥以降の追肥は絶対にやらないこと。

◇病害虫(べと病対策)

- べと病は、秋～冬に感染していたものが、3月下旬頃から発症する。その後、周辺に2次感染をおこし、多発することがあるので、発病株があれば、早めに抜き取り圃場外へ持ち出す。
- 感染時期の3月下旬から、下記の薬剤で早期防除に努める。また、たまねぎは薬液が付きにくいので、展着剤を加用する。

	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
たまねぎ	べと病	リドミルゴールドMZ	500～1,000倍	収穫7日前	3回以内
		プロポーズ(顆)	1,000倍	収穫7日前	3回以内

【ご報告】

勝浦みかん町民公開講座の実施報告

2月2日に農村環境改善センターで勝浦みかん公開講座がありました。基調講演として和歌山県下津町の岩本治氏より「楽しんで柑橘栽培」～毎年のようにおこる異常気象にも対応するために～と題して、土壌肥料や微生物、草生栽培について以下のような話がありました。

- 岩本氏によると勝浦町は有田の上流域によく似た風景であるとのこと。
- 勝浦町は、母岩分布からみて安山岩系のため、K(カリ)成分が不足となりがち。
- ヒメイワダレソウは、直根が深く入り、側根に細根が少ないため、地表20～30cmに分布するみかんの新根とは養分も水分も競合することなく、肥料の吸収率も高い。水分も競合することなく、除草剤で管理した裸地に比べ、真夏の渇水時には明らかな差がみられる。また地温も低く保たれる。
- 草生栽培は根が枯れることで、土壌に空隙ができるため耕耘のような効果がある。
- 摘果は、みかんの根の発生量に大きくかかわっており、隔年結果の要因にもなっている。
- グリホサート系の除草剤は菌根菌に大きなダメージを与える。
- ヒメイワダレソウとヘアリーベッチを組合せた草生栽培で、減肥が可能となる。

また、当日は、事例発表として坂本の寿園 上野裕子氏より、1日農業バイトアプリ「day work」を活用してと題して報告がありました。アプリについては、定められた様式に日程や農家情報を入力すれば登録は簡単にできる。ただ、登録の際には仕事の内容をなるべく詳しく書き、給料の支払い方法や集合場所、労災保険等の条件を詳しく書くことで、後のトラブルを回避することができるとのこと。今シーズンのみかん収穫で初めて使ってみたところ、15名の方が訪れ、長い人は、5日以上来た人もいた。自ら応募してきた人には嫌々しごとする人はいないし、さぼる人もいない。向き不向きはあるかもしれないが、感謝の気持ちが大切であると強調されていました。

<お問い合わせ先>

勝浦町農業振興推進班

勝浦町農業振興課42-1505 JA営農振興課088-538-7180 徳島農業支援センター088-626-8768